

今朝も皆さまと共に主を礼拝できますこと感謝します。9月も最後の主日を迎えました。今朝は月に一度の機会として、教会の年間聖句に関する聖書の箇所からみことばに聞きます。今年私たち八千代聖書教会は、詩篇119篇105節のみことばを年間の聖句として掲げています。毎月恒例となっていますが、一度皆さんと一緒に声に出して読んでみましょう。

「あなたのみことばは 私の足のともしび 私の道の光です。」

聖書のみことばを足のともしび、道の光として歩むことを願いつつ今年は歩みを進めています。9月末になり主の2025年も早くも4分の3が過ぎようとしています。今朝もともにみことばを聞くことについて教えられていきたいと思えます。これまで聖書を土台として歩むこと。神のことばである聖書にいつも聞き、聖書を基準に物事を考えること。そしてみことばに日々従って生きることの大切さをともに教えられてきています。2月に読んだサムエル記第一 3章9節にはこういうみことばがありました。

「主よ、お話しください。しもべは聞いております」

主なる神さまが私たちにみことばを通して語りかけてくださる。謙虚なしもべの心となって、素直に誠実にみことばに聞いていくことの大切さと、そこにある幸いを教えられています。今朝のみことばは、そのようにみことばを聴く心を神さまが私たちに与えてくださること。神さまご自身が、みことばを吸収しみことばに従う思いへと私たちを導いてくださるという聖書の約束とともに目を向けていきたいと思えます。

石の心・肉の心

今朝のみことばはエゼキエル書です。エゼキエル書は、旧約聖書の中でも比較的後の方に書かれた書物です。エゼキエルはイスラエルの国が北と南に分かれて、南ユダの預言者として活動した人物です。エゼキエルが生きた当時、ユダの国はすっかり墮落し神さまに背いて歩んでいました。そんなユダに対して神さまからの裁きが下され、ユダはバビロンという国に攻められ敗れてしまいます。バビロン捕囚という言葉聞いたことがある方もおられると思いますが民はバビロン捕囚でバビロンに連れて行かれてしまいます。その捕囚した先の地で、ユダの民に対して神さまの言葉を語ったのがエゼキエルでした。彼は自分たちユダの民が捕囚となったのは自分たちの罪のゆえであると語ります。そしてユダの都エルサレムがさらなる攻撃を受け、完全な破滅へと追いやられていく様を預言していきます。

罪ゆえに捕囚の憂き目に遭っている。都も国も完全な滅びへと向かっている。そんなユダの民に対して、神さまは回復の約束を語ってくださいます。神さまに背く罪を指摘しそこに下される裁きを予告する。それとともにエゼキエルは、そして神さまはそこからの回復、救いを語られます。神さまの赦しと罪からの救い、そして御前での回復を教えるのが今日の箇所です。今日の25節と26節。

わたしがきよい水をあなたがたの上に振りかけるそのとき、あなたがたはすべての汚れからきよくなる。わたしはすべての偶像の汚れからあなたがたをきよめ、

あなたがたに新しい心を与え、あなたがたのうちに新しい霊を与える。わたしはあなたがたのからだから石の心を取り除き、あなたがたに肉の心を与える。

神さまが私たちの罪汚れをきよめてくださること。偶像崇拜の罪から清められ、新しい心・新しい霊が与えられるという約束がここには記されています。あなたがたに新しい心を与え、あなたがたのうちに新しい霊を与える。26節の後半には石の心を取り除き、肉の心を与えられています。石の心というのはなんとなく分かります。石のように硬い心、ということでしょう。ですが「肉の心」というのはとても不思議な表現だなと思えます。「肉」という言葉は特に新約聖書では悪い意味で語られることが多い言葉です。神さまに敵対する心という意味で肉の心、肉の欲望に従う心という意味でこの言葉を捉えるかもしれません。しかし今朝のエゼキエル書はそういう意味ではなく、物質的な肉が表す、柔らかい心、みことばが染み込む良い心という意味で「肉の心」という言葉が使われています。石の心すなわち硬い心が取り除かれ、肉の心すなわち柔らかい心が与えられる。頑なで神さまの言葉を受け入れようとしない私たちの心が作り変えられ、柔軟に素直に神さまの言葉を受け入れる肉の心とされていく。「主よ、お話しください。しもべは聞いております」そう言った柔らかく謙虚に、素直に神さまのみことばを受け入れる心が与えられる。そのように聖書は約束しているのです。

主の掟に従って歩む

そして、神さまに素直に聞き従う肉の心が与えられた者は、神さまの掟に従いみことばを行なって生きようになると約束されています。今日の27-28節。

わたしの霊をあなたがたのうちに授けて、わたしの掟に従って歩み、わたしの定めを守り行うようにする。

あなたがたは、わたしがあなたがたの先祖に与えた地に住み、あなたがたはわたしの民となり、わたしはあなたがたの神となる。

私たちに肉の心が与えられる時。私たちの心が柔軟にされ解きほぐされていく時、神さまのみことばに従う者とされていく。主の掟に従う歩みへと神さまは私たちを導いてくださる。そうみことばは約束します。私たちがみことばをただ聞くだけでなく、神さまの掟に従って歩み、神さまの定めを守り行って生きる。そのために、神さまは私たちに肉の心をくださるのだと言うことです。

みことばを聞くこと、みことばを足のともしび、道の光として歩んでいくことを私たちは今年考えてきました。みことばに日々聞いていくこと、聖書の教えに従って生きることの大切さをともに確認しました。私たち個人の歩みも、八千代聖書教会の歩みも、ますますみことばに基づいたものとなりみことばに従ったものとなっていくことを心から願っています。

しかし一方で、みことばの大切さやそれに従うことの重要性を覚えつつも、なかなかみことばに従うことができない私たち、私であることを思います。どんなに聖書を読んでもそれに従い切ることができない。みことばの教えていることを受け入れ切ることができない。そんな頑なな心が私たちのうちに、この私自身のうちにある。そんなことに気付かされるのです。私自身、この1年みことばに従うことをテーマとして考えまた説教でもそう語ってきていますが、やはりそれは大変な難しいことでもあるな、と思わされるわけです。みことばを足のともしび、道の光として歩んでいく。歩んでいきたい。そのような思いがあってもなかなか現実はそうはいかない。そのようなことがあります。誰もが石の心を持っている。神さまに従い切れない弱さや、みことばを素直に聞けない頑固さ。みことばの言うことよりも自分の理屈や願いを通してしまうような、そんな自分勝手な思いが私のうちにあることを思わされるのです。

しかし聖書は、神さまが私たちの心を新しくし、石の心を肉の心に変えてくださると約束するのです。みことばに従うこと。それは自分の力ではできない。聖霊なる神さまのお働きによるのでなければできないことである。それが聖書が私たちに教えていることです。神さまが与えてくださる肉の心。聖霊によって心を新しくしていただいて、私たちはみことばに従う者となっていく。私たちのうちにおられる聖霊が、私たちを日々新しくしてく下さる。みことばの約束に私たちは信頼し、聖霊なる神さまのみわざを願い待ち望みつつ、日々の歩みを進んでいきたいのです。

エゼキエルと同じ時期に活動した預言者、エレミヤはこんな預言を語りました。エレミヤ書31章31-34節。

見よ、その時代が来る——主のことば——。そのとき、わたしはイスラエルの家およびユダの家と、新しい契約を結ぶ。

その契約は、わたしが彼らの先祖の手を取って、エジプトの地から導き出した日に、彼らと結んだ契約のようではない。わたしは彼らの主であったのに、彼らはわたしの契約を破った——主のことば——。

これらの日の後に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこうである——主のことば——。わたしは、わたしの律法を彼らのただ中に置き、彼らの心にこれを書き記す。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。

彼らはもはや、それぞれ隣人に、あるいはそれぞれ兄弟に、『主を知れ』と言って教えることはない。彼らがみな、身分の低い者から高い者まで、わたしを知るようになるからだ——主のことば——。わたしが彼らの不義を赦し、もはや彼らの罪を思い起こさないからだ。」

神さまはエレミヤを通して、ユダの民の回復を語ってくださいました。そしてここでは新しい契約として、神さまがご自分の律法を彼らの心に書き記してくださる、と約束されています。互いに主を知れと教える必要がないほどに、人々のうちに神さまを知る心が与えられていく。神さまを信じ従う心に皆が満たされていく。そんな新しい契約、新しい約束です。神さまの与えてくださった新しい契約。これはイエスさまによる救いと罪の赦し、そして聖霊の働きによって私たちが新しくされることを指しています。頑なな私の心が新しくされる。神さまのみことば、聖書の教えがこの心に刻まれていく。神さまを知り神さまに心から聞き従う歩み。罪赦された者として、みことばに従って生きる歩みへと私たちは招かれ導かれています。私たちのうちにおられ私たちを造り変えてくださる聖霊の働きに信頼し期待をして、私たちは歩んでまいりましょう。

神の民として

最後に、エゼキエルの預言にもエレミヤの預言にも「あなたがたはわたしの民となり、わたしはあなたがたの神となる。」という約束が語られていました。エレミヤの預言では「わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。」と言われていますが、私たちが神さまの民となる。神さまが私たちの、私の神となってくださるという恵みの

約束が語られています。神さまのみことばに従うとは、嫌々従うとか、そうしないと怒られるから仕方なく行うとか、そういうことはありません。神さまとの信頼関係、神さまとの愛の関係の中で私たちはみことばに従うものとされていく。私たちを愛し全てを最善に導いてくださる神さまに信頼して、神さまからの愛の言葉としてみことばを受け取りそれに喜んで従う者とされていく。それが私たち信仰者、神の民とされた者たちの歩みなのです。

「あなたがたはわたしの民となり、わたしはあなたがたの神となる。」私の神さままでいてくださる神さま。先日も祈禱会で詩篇を読んだ際に、私たち一人ひとりに目を留め愛をもって関わってくださる神さまの恵みをともに味わいました。神さまが私の神さままでいてくださる。どこにいても何をしていても、どんな時も私たち一人ひとりを愛し、「あなたはわたしのものだ」と言ってくださる神さま。このお方の愛を受けて、私たちもまた、神さまの民として、神さまからの語りかけに真摯に聞き誠実に従っていく。そのような神さまとの愛の関係をこれからも築いていきたいと願います。私を愛しあなたを愛していてくださる神さまを見上げて、神さまのみことばに素直に喜んで従っていく歩みをさせていただきます。

あなたがたに新しい心を与え、あなたがたのうちに新しい霊を与える。わたしはあなたがたのからだから石の心を取り除き、あなたがたに肉の心を与える。

私たちに新しい心を与えてくださる神さまの恵みに、私たちは信頼してまいりましょう。新しい霊、新しい肉の心をいただいて、神さまに喜んで従っていく。神さまの民として神さまとの愛の関係を生きていく。そのような私たち八千代聖書教会とますますさせていただきたいと思います。

お祈りをいたします。「天のお父さま。みことばをありがとうございます。頑なな私たちの心をあなたが新しくしてくださること、聖霊なる神さまが私たちを日々造り変えてくださりみことばに従う者としてくださるその恵みの約束を今朝お語りくださり、ありがとうございます。依然として弱さや罪深さを抱えた私たちですが、あなたの愛に日々生かされ感謝して、聖霊の働きによりあなたに喜んで従う者となることができるよう、導いていてください。あなたのみことばを足のともしび、道の光として歩み続ける私たち八千代聖書教会とさせていただきますように。みことばに感謝して主イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。アーメン。」